

広島県民いきもの調査 田打（とうち）生きもの観察会報告

2019年10月5日（土） 13:00～16:00

主催：広島県環境県民局 自然環境課、協力：農事組合法人 さわやか田打

講師：金尾正彰さん（元 田打のふるさとを守る会 事務局長）

「農地の生きものを守る自主的な取り組み：現状と課題」

観察会スタッフ：一般財団法人 広島県環境保健協会

和田秀次（植物）、中西 毅・笹田一喜（水生動物・昆虫）

2019年10月5日、三原市久井町の田打ビオトープで生きもの観察会を開催しました。10月とはいえ残暑が厳しいなか、19名が参加して身近な生きものと触れ合うことができました。

田打ビオトープは、生物多様性と共存する農業モデル地区として整備され、地域活動によって維持・管理されてきました。ここには世羅台地に特徴的にみられる湿地やため池などの里地の二次的自然が維持されていて、魚類・貝類・水生昆虫・トンボ・植物などの多様な生きものを観察しました。



金尾さん（元田打ふるさとを守る会事務局長）を迎え、地域の自然を守るために行ってきた活動について話をいただきました。現在は、管理を担う地元住民の高齢化にもなって活動の継続に支障がでてきているそうです。それによって、田打ビオトープの動植物の生育・生息環境の維持がむずかしくなっていると話をされました。人材不足が深刻な課題だという言葉が印象的でした。



講師の金尾さん



観察会スタッフによる説明

続いて、「ひろしま県民いきもの調査」を紹介し、「いきものログ」の使い方を説明しました。

広島県では生物多様性を調べるため、県民参加型の「ひろしま県民いきもの調査」を実施しています。「いきものログ」はインターネットを利用した環境省が管理するシステムです。県では、このシステムを県民参加型の調査に活用しています。自分が観察した生きもの情報を投稿して、データベースに蓄積していくものです。「いきものログ」への登録や投稿など、その使い方をわかりやすく説明しました。すでに登録している方が4名おられました。

いよいよ、フィールドでの観察です。専門のスタッフが水生生物・植物・昆虫などについて説明しながら、2時間かけてゆっくりと湿地やため池などを観察しました。



湿地の観察



コウホネが生育するため池

確認された生きもの 1



トノサマガエル



ミナミメダカ



タイコウチ

湿地やため池ではさまざまな水生生物を見つけることができました。魚類のヌマムツ・フナ・ドジョウ・ミナミメダカ・ドンコをはじめ、昆虫類ではタイコウチやミズカマキリといったカメムシ目やガムシ・ヒメゲンゴロウ・コシマゲンゴロウといったコウチュウ目など、たくさんの種類がみられました。実際の生きものと触れ合うことで、生きものと環境について楽しみながら学ぶことができました。



ビオトープとして整備されたため池



水田周辺の観察

確認された生きもの2



ナツアカネ



キトンボ



ノシメトンボ

希少種のモートナイトトンボは、成虫の出現時期が違うため見ることはできませんでした。しかし、水辺の環境が多様で、アカトンボ類などの多くのトンボを観察することができました。

フネドブガイの保全

フネドブガイは最近になって生息が知られるようになった希少な淡水二枚貝で、県内の生息地はきわめて限られています。

田打ではビオトープとして整備したヒヨセでフネドブガイを保全しています。しかし、金尾さんの話にあったように維持・管理がむずかしくなったため、フネドブガイの生息に適さなくなっています。そこで、浅くなった水たまりからフネドブガイを採取して、元々生息しているため池に放しました。

フネドブガイの重要性とこれまでの経緯を説明し、保全の実践の場を見ていただきました。



フネドブガイ



フネドブガイの解説と採取



フネドブガイの放流

観察会后、多くの生きものに触れ合えてよかったという声を聞くことができました。また、地域の人の努力で生物多様性が守られてきたことも理解していただいたようです。身近な自然が人との共存によって維持・管理されていることを再認識できた有意義な観察会になりました。